

Ⅳ 令和２年度 学校経営報告

１ 今年度の取組と自己評価

（１）教育活動の取組と自己評価

【学習指導】

- ① 習熟度別授業や少人数授業の実施方法等の工夫を行うとともに、葛総若手教員授業塾、授業相互参観(一人年間２回以上)等の実施を通して授業改善を推進し、生徒一人ひとりの個性・能力に応じた授業を展開した。
- ② 教科会を活性化させるとともに教科間の連携を図り、より一層ねらいを明確にして授業計画を作成し、学力向上スパイラルの深化を図った。また、必修・選択科目の効果検証・検討や葛総で育む総合的な学力の成果分析・検証等を実施した。
- ③ 土曜・長期休業日中の講習、ベンキョウ倶楽部特訓講座等を展開し、基礎的・基本的な学力の定着と応用力の育成を図った。また、習熟度に応じた講習や希望進路実現に向けた系統的な学習指導を全校体制で行った。
- ④ 選択科目履修の意義を十分に理解させるとともに、予習・復習の徹底や週末課題の提示、自習教室等の設置等により、学習を習慣化させる指導の充実を推進し、授業外の学習時間の確保と増加を図った。
- ⑤ 学校設定教科・科目の開発・充実に積極的に取組み、系列の特色を打ち出すとともに、時代を見据えた教育課程を編成し、生徒一人ひとりの知的好奇心を引き出す教育を推進した。
- ⑥ 授業等を通して、積極的に読書に親しむ指導を進めるとともに、図書館を有効活用するなどして不読率の減少を推進し、新たな発見や感動に出会うことができる機会の充実を図った。
- ⑦ コロナ対応として、今年度休校中に授業課題の送付による授業を行った。学校再開後の授業日数は、例年と変わらない日数の確保が出来た。

【進路指導】

- ① 進路実現統一様式を活用するなどして、進路実績の分析を進めるとともに、進路先の選択決定に、生徒がチャレンジ精神をもって取組めるよう、組織的に全教職員でガイダンスや個人・保護者面談等の充実に取組んだ。
- ② キャリアカウンセラー及び総合学科推進部を中心として、生徒の希望進路実現に向けた科目選択を全職員で支援するとともに、興味関心が高い科目に対して一層意欲的に取組むことができるよう指導の充実を図りつつ、生徒に明確な学習目標と進路目標をもたせた。
- ③ コロナ過でありながら本校の大切な課題研究発表会や学習成果発表会の実施を通して、キャリア・コア（「産業社会と人間」「総合的な学習の時間」）の内容を一層充実させた。また、総合的な学力を必要とする調査研究活動や課題研究への取組を充実させ、本校の特色としてのキャリア教育の充実を希望進路実現に結びつけた。
- ④ 葛飾区との「相互連携協定」をもとに、中高生交流事業の推進等を生かし、キャリア教育を充実させるとともに、東京都総合学科高等学校教育活動成果発表会(12月)への積極的参画を推進して、生徒の学習活動へのモチベーションの維持・向上と社会に役立つ喜びを実感させた。
- ⑤ 自学支援や情報発信、メディアセンターとしての図書館機能の充実を図った。

【生活指導】

- ① 生活指導統一基準に基づく指導の徹底を図るとともに、「規律正しい高校生活」を本校の特色として一層推進した。
- ② 「時を守る」「場を清める」「礼を正す」を生活指導のモットーとし、全教員の共通理解の下で、遅刻指導・身だしなみ指導、挨拶運動等を行い、自主自律の精神及び社会貢献の心を育んだ。基本的な生活習慣の定着については、徹底した指導を行った。
- ③ 自主自律の中核としてノーチャイム制の一層の定着を図るとともに、学校全体で組織的に授業規

律を確立した。

- ④ 生徒支援連絡会（兼：学校いじめの対策委員会）を中心に、情報共有するとともに校内研修会を充実させる等、学校全体として組織的に、特別支援教育を推進し、いじめの未然防止及び早期発見・早期対応を徹底した。

【特別活動・部活動】

- ① 生徒が活躍する場面をさらに拡大し、生徒会や部活動、学校行事等の運営に関わる教育活動を通して、生徒の自主性や社会性を育成するとともに、愛校心やコミュニケーション能力、協調性などを育んだ。
- ② 部活動の一層の活性化に向けて、その成果を積極的に HP や学校便り、全校集会等において紹介した。HP の部活動紹介についてリニューアルを行い次年度から運用予定である。

【募集・広報活動】

- ① 学校見学会や学校説明会、中学校訪問等の実施方法の工夫、学校便りの発行やHPの更新スピード向上等を通じたタイムリーな twitter 情報発信等により、本校の特色を広く中学生・保護者に周知して志願者数増加に結びつけた。
- ② 本校設立の理念を実現する視点をもとに、入学者選抜方法の一層の充実を図った。

【健康づくり】

- ① スクールカウンセラーを活用した教育相談体制の整備や生徒支援連絡会等の充実を図るとともに、個人情報管理の徹底を図りつつ、生徒指導に関わる必要情報の共有化を推進し、よりきめ細やかな生徒指導体制を実現した。
- ② 保健委員会活動の充実を図るとともに、スクールカウンセラー等の専門家による健康講話の実施等、学校保健活動の充実を図り、健康教育を推進した。
- ③ 日々の清掃活動の状況を把握・提示する等校内美化を一層徹底するとともに、美化だより等の継続的発行や生徒委員会活動の充実により、組織的な校内美化活動を推進した。また、経営企画室と連携した植栽整備を進めるとともに、生徒エントランスの整備等も視野に入れて潤いある校内環境づくりに積極的に取組んだ。
- ④ 体育理論の指導を更に充実させ、体育の授業における自己やチームの体力向上 PDCA サイクルを確立する。東京都統一体力テストを円滑に実施し、テスト結果を活用して体力の向上を図った。

【学校経営】

- ① 教職員が一体となった円滑な教育活動の実現と課題解決に向けて、個人情報徹底管理等による事故の未然防止に努め、情報の共有化を一層推進し、企画調整会議を中核にした組織的で PDCA に基づいた学校運営を図った。
- ② 職層に応じた職務遂行やOJT推進のため、分掌等内OJTや授業相互参観、OJTのための校内研修会、葛総若手教員授業塾等の充実を図り人材育成を推進した。
- ③ 道徳心や社会性を育成する視点も踏まえて地域連携や地域貢献を重視した活動を継続して実施し、葛飾区との「相互連携協定」に基づく中高生交流事業を推進した。
- ④ 地域貢献型宿泊防災訓練等を実施できなかったもので、震災等にかかわる校内防災体制の整備や防災マニュアル等の周知徹底を図るとともに、生徒に対して訓練の意義を周知し、生徒が安全で安心できる学校づくりを次年度の課題とした。
- ⑤ 四半期毎の予算の執行・管理や予算編成指針に応じた予算編成等を通じた学校経営計画の推進、窓口対応や校内美化の充実等を通しての開かれた学校づくりやPRの充実等、行政感覚を一層学校経営に生かした取組みを推進した。

（２）重点目標と方策、数値目標

- ① 本校建学の理念や特色ある教育活動等の更なる発展のため校内研修を実施する。

◇数値目標 校内研修：１５回（各回参加者１５名以上）

【今年度の結果】校内研修：１５回

- ② 授業改善に努めるとともに、基礎基本の学力の定着と応用力の育成に向けて、土曜講習・長期休業日中の講習・勉強合宿を実施する。

◇数値目標 「生徒による授業評価」における授業満足度：９０％

授業力向上に関わる校内研修：１２回

長期休業日中の講習：６０講座

土曜講習：１５日（各日のべ参加者７００名以上）

【今年度の結果】「生徒による授業評価」における授業満足度：９３．１％

授業力向上に関わる校内研修：９回

長期休業日中の講習：２１講座（前期中止・後期のみ）

土曜講習：６日（６月まで休校１月から土日の活動中止のため）

- ③ 希望進路の実現に向けて、第１～１０期生の進路実現を踏まえ、進路実現率に係る指標等の精査を進め、生徒がより高い目標にチャレンジするよう指導する。

◇数値目標 進路実現率：９０％

進路部アンケートにおける生徒の進路指導満足度：８０％

国公立大・難関私大合格者 ３名以上

【今年度の結果】進路実現率：９２．４％

進路部アンケートにおける生徒の進路指導満足度：８７％

国公立大・難関私大合格者０名

- ④ 遅刻・身だしなみ・挨拶の指導を徹底して、自律の精神と社会性を育てる。

◇数値目標 １クラス平均遅刻数：０．７名以下

【今年度の結果】１クラス平均遅刻数：１．１７名

- ⑤ 生徒の自主性や社会性を育てるとともに、愛校心を育み活気あふれる学校とすることを目指して、特別活動・部活動を充実させる。葛希祭については、本校の特色ある行事として、また、地域の風物詩としての確固たる土台を築く。

◇数値目標 部活動への加入率：９０％

文化祭への来場者数：３０００名

【今年度の結果】部活動への加入率：７９％

文化祭への来場者数：未実施（コロナ感染症防止のため活動が出来ず）

- ⑥ 全教職員で広報活動に取組み、本校への入学志望者数の増加を図る。

◇数値目標 東京都中学校長会進路対策委員会調査：３００名

推薦に基づく選抜志願者数：２００名

学力検査に基づく選抜（第一次募集）志願者数：２３０名

学校見学者数：３０００名

中学校における説明会への参加：２０校

地域でのイベントへの参加：３０回

【今年度の結果】東京都中学校長会進路対策委員会調査：１９７名

推薦選抜志願者数：１２５名

学力選抜志願者数：１３４名

第二次募集志願者数：３名

学校見学者数：６８５名

中学校における説明会への参加：６校

地域でのイベントへの参加：未実施（コロナ感染症防止のため活動が出来ず）

2 次年度以降の課題と対応策

(1) 組織的な学校運営

総合学科高校として特色ある学校づくりを推進している本校では、全教職員が総合学科高校の意義と本校設立の理念を理解しつつ教育活動を推進していくことが必要である。企画調整会議を中核とした組織的な学校運営は、効率的な業務につながり、会議時間短縮も含め、ライフ・ワーク・バランスの向上にもつながった。今後は、次期学習指導要領及び高大連携改革に向けた対応における組織的な取り組みのために、研修会を通じた情報提供・情報共有を図り、本校の特色である科目登録や探究活動充実に向けた指導を踏まえ、学校全体で総合学科の特徴を十分に生かした改革を推進する。

(2) 特色ある教育課程の編成

本校 11 年間を検証し、理系志望生徒へのより高いレベルの進路指導やサポート体制の充実を目指して、4 系列へと平成 31 年度に再編した。生徒個々の可能性を伸長するキャリア教育の更なる発展や外部と連携した様々な学習活動を通して、生徒の学習意欲を喚起するとともに地域に愛され地域に貢献できる生徒の育成に向けて教育課程の充実と精選を図る。

(3) 基礎学力の向上と可能性を広げる進路実現

本校は、基礎的・発展的な学力を高めつつ、探究の成果をもとに推薦入試やAO入試に臨ませる指導を実施してきた。平成 27 年度入学生（9 期生）から組織した「進路実現選抜チーム」11 期生の進路決定は、これまでよりもさらに幅広い分野となり、高い難易度の進路先も大幅に増加した。今後は 10、11、12 期生のデータを詳細に分析・検討し、各種進路研修会の開催や、個々の生徒データ分析に基づいた指導を充実させ、難易度の高い推薦入試へチャレンジするための基礎的・発展的な学力の向上を目指していく。

(4) 広報活動のさらなる強化

今年度、12 月までに近隣区の葛飾区・足立区・江戸川区立の主中学校へ学校案内と資料配布を 3 回行った。また、近隣塾訪問を行って広報活動を強化した。中学校説明会へ管理職と全教員で体制を作った。学校説明会では、全て個別対応にも関わらず 600 名を超す参加者が来校した。9 月に本校において葛飾区中学校研究会進路指導部会を開催し、中学校の進路主任への広報活動を行った。この検証から広報活動の充実を行えた。

次年度は、さらなる選抜倍率の増加を図るために、HP とツイッターを利用し学校活動の広報を充実させる。